[redacted]

名古屋 開府400年
老舗探訪
東海企業ウォッチング
28

命がけで養蚕器具開発

大企業との競合避け　すき間産業に活路

共栄社
一九一〇年創業
豊川市

ものづくり大国と言われる日本だが、機械製造で100周年を迎えた企業は多くない。業務用芝刈り機など緑地管理機械を製造・販売する共栄社（本社豊川市美幸町1の26、電話0533・84・1221）は、ものづくりの100年を積み重ねた数少ないメーカーの1社だ。

同社は1910年7月、林総吉が、養蚕具の二角式製簇（ぞく）器の製造会社として豊川市で創業した。22年に人力脱穀機を開発し、国内市場はもちろん、韓国や中国、東南アジアへも輸出した。昭和初期には食糧増産に対応するため動力脱穀機の製造を開始。正確な機能と木工部分に高級材を使うなど品質面での評価は高く、他社より高価格ながら最盛期の54年には年間2万台を生産している。

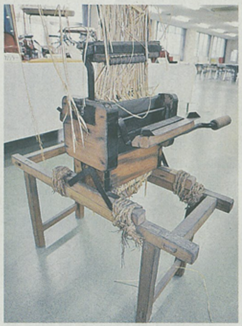
45年12月に2代目社長を引き継いだ林嘉一は、脱穀機を発展させて動力耕運機を製品化した。耕運機ブームで一時は全国に100社以上のメーカーが乱立したが、生き残ったのは同社を含めて十数社のみだったという。

その同社にも大きな転機が訪れる。耕運機の次は乗用トラクターと販売店からトラクターの製造を求められると、嘉一はこの要望を固辞する。

むやみに大企業と競合する製品ではなく、自社の体質に見合った独自の製品開発こそが発展の決め手との考えがあった。昭和30年代以降、嘉一の決断で全国に300カ所程度あったゴルフ場で使用する管理機器などを研究。59年に業務用芝刈り機の製造・販売に乗り出した。

同社が製造してきた業務用芝刈り機や農業機械などの製品群

独自の高精度刃物を開発　芝刈り機で国内トップに


創業のきっかけとなった「二角式製簇（ぞく）器」

創業のきっかけとなった製簇器は、蚕がまゆをつくりやすいようにわらを山のようなかたちに折り込む養蚕に欠かせない機械。一見単純な構造に見えるが、わらにしっかりと角がつき、機械から無理なくわらが抜けるなど技術条件が求められる。

事業の失敗で失踪（しっそう）した父親に代わり家計を支えていた創業者の林総吉は、多額の借金をして製簇器製造の権利を得たため、開発に失敗すればすべての財産を失ってしまう。総吉は命がけで研究し、一往復の動作でわらに2つの角ができる独自の「二角式製簇器」を実用化した。

製簇器の製造が軌道に乗ると、総吉は日本で初めて米国から高額な電気溶接機を導入するなど技術立社を最優先に掲げた。

技術開発の熱意は2代目の林嘉一にも引き継がれる。59年9月の伊勢湾台風は農業に壊滅的な被害を与えたが、政府は復旧に向け機械化を打ち出し、被災地で耕運機の実演展示会が開かれた。大手メーカーが居並ぶ中、嘉一の陣頭指揮で開発を進めてきた同社の耕運機は、荒れ果てた畑を見事な高畔（あぜ）につくりかえた。驚いた他社まで同社の実演に集まり、展示会はさながら同社の独壇場になったという。

また嘉一は芝刈り機への進出時、農業機械に比べて高い精度が求められる「刃物（カッター）」についても独自研究を重ねた。当時、国内の業務用芝刈り機市場は米国製が独占していたが、芝刈りの仕上がりを左右する刃物の完成度がユーザーから高く評価され、同社を芝刈り機の国内トップメーカーに押し上げた。

〝分相応〟の堅実経営推進

3代目社長　林　雅巳さん

知人から「100年もすごいが3人の社長でそれを迎えたのもすごい」と言われたことがあります。振り返ると創業者が35年、2代目が36年、私が28年と4カ月で100年を迎えたことになります。

今日を迎えられたのは、創業時から培う技術立社と分相応の堅実経営があります。

2代目が大手と競合するトラクターではなく、当時はすき間産業だった芝刈り機に新たな活路を見出したのも、分相応という経営理念があったからだと思います。

今後も芝刈り機を軸足に、環境変化を先取りしながら分相応の経営に取り組み、ものづくりを通して自然と調和した社会の実現に貢献していきます。

[redacted]

BARONESS
Quality on Demand
共栄社は、おかげさまで100周年！　これからも、あらゆるシーンで社会に貢献します。
ご家庭からスポーツフィールド、そして河川敷から雑草地まで、
緑に関することなら「バロネス」にお任せください！
創業100年
since1910
世界で活躍！芝草刈機のトップメーカー
株式会社 共栄社
本　社／〒442-8530 愛知県豊川市美幸町1-26 TEL(0533)84-1221 FAX(0533)84-1220
URL http://www.baroness.co.jp　E-mail eigyo@baroness.co.jp
ISO9001 認証取得
JQA-QM5163